



新編 奇蹟

九

^ 13
3378
9



13
3378
9

皇國
海軍
海軍
海軍
海軍



教諭赤松卷之九

目錄

一 在任時の事
二 在任時の事
三 在任時の事
四 在任時の事
五 在任時の事
六 在任時の事
七 在任時の事
八 在任時の事
九 在任時の事
十 在任時の事

此の書は、
明治二十九年八月九日
寄贈

大正十年八月九日
寄贈
本大學出版部氏

教慾奇談巻之九

桂枝坊本有之夕三子多事

消小森法六始終相認の事

おも桂枝坊を三郎と云ふを相認が

羞の意を多親お秀と云ふ

両仏は色を多親と云ふ

一対一併の誓願心なり

三年改新法一又君佛是地を

生者必滅と説た身心老が不
定も世のなるいをも別離と
中あつる事やうにかく深き因
ちんをそ一あよ一あをゆく全
ちんをゆえのうへをかさうのうへ
さんちんは法ををゆくすと尸をな
佛縁よ成すじきめのまもゆへ
乃ち水を種有るだをぬく
出らう一の画一歌よもろか
のかさちうてかくゆかゞ一いあり
あうとまうあうんせうきみかい
曾姑妻伴皆水葉の死をいし
あのみよのあかき世控人よを
かくあよすてて連一坊をあり
あのみものもの善控のた光治し
あもかく業因ぬき承る水
あせもさふれい何れをみる

佛果をもつさそののりや〜と日本
 を口國のら西國中玉を
 此より白戸表へ〜一先佐利
 候し〜一白子也入之今年
 福もあは別明をもる書と回志
 とも〜音花も心とる
 儀のそらさん節は衆をほらぬ
 ことをはふのうくをく〜
 か〜ア〜一人の山回り
 へ〜とてはあ〜おま〜は
 おまが悴子〜来り〜母を
 喰ら〜一〜も泣入〜
 一〜又泣父をも泣〜
 泣入の造〜一〜を任身
 一〜志〜一〜を列〜
 泣〜一〜子〜書



時をつとめてをみるはしてを
あるは海に安つて

迷悟二母城悟く十方

空唯心法既已示淨土

と佛のいふを迷へるとらふは

流傳はと悟水とらせの聲しを

人教母はありし時を是欲の法を

子法なうまは思の白深くして

たせはあざむれしを重なるを

これ指をむしを地秀が函しを

あるはと白法をうましを

あるうらたせが名法に力を地し

やんとくはうらちを秀がが

年法よのあるとはまの町

は情さよをまふらちのし

こそなまはまのしのお

佛たはげは徳とをえのま
佛地をさるれと山寺の
和尙のさびひとさかきと
のづれ佛果をけを極楽子生
れろろろろろろろろろろ
一系一石塔いのちる岩天
しらもさしよかろ中かろ
あらうも成佛の平あろ山
あままり任持もはるろろ
のろろろろろろろろろろ
一系衆徒をれもすろろろ
を生れろろも佛縁のろろ
あろろろろろろろろろろ
果をほろろろろの蓮花よ
たろろろろろ佛のちろ

と離れしりしをいふと海六すたる
ほとお秀しよものもふたつは夫婦も
成佛しなまひしにかゝる植種き
といありとらうのたせわいのあやと
りよ海六すたるたせむいをもえよ
いよにしりしも主人大徳いそ
教をし率るれをせむつた
神ありしの際よの費のせめよ
お白あぐんもいふびんよいあ
く如佛なるもあひもよ
二儀とを及のつけをがし
せををのれをいもむる生の乃
うのむねなるし物かううよ
いこく如ヶいしと休むかたせ
書提をもとむいけさし
結名さしとあし

桂クニ種シユもとも子シノの佛ブツ一ヒトありが海
六ムが教クワシも次ツギ方カタくはるきくあり
く後ノチもたなくも教クワシもあつて桂クニ種シユ
あつて思オモひ詞コトバ杖ツエかゝるもあつて
もあつて一ヒトさうえ水ミヅもあつてもあつて
あつてく海ウミんぢつて一ヒト層イロあつてく
もあつてのあつて川カハあつてと甲カウを
おオくくすあつてよとあつてとこ
まをたき除ノゾク教クワシのくあつてと
あつてとくくしてあつてとあつて

飲ク中チユウハ心シン歎トク知チ
章シヤウ騎キ馬バ船セン伊イ予ヨ
眼ガン弄リウ海カイ井イ水スイ尾ビ

教クワシ為シ奇キ後ノチ是コト之ノ九ク

